＜先週の説教から＞

『詩編㉗―主はわが光、わが救い！』

武田　真治　牧師

詩 編 ２７：１～１４　ローマ手紙 ６：５～１１

本日の礼拝は宗教改革を覚えながら献げています。改革者ルターが作詞した讃美歌「神はわが砦」(＝昔は「わがやぐら」でしたね) は詩編 46 編を元に書かれたものですが、この詩編 27 編も同様の “力強い信仰” が歌われています。「主はわたしの光、わたしの救い、わたしは誰を恐れよう。主はわたしの命の砦」と。多くの信仰者を励まして来た詩編です。

ただ、この詩編は本来、エルサレム神殿への巡礼を望んでいる詩編です。それが4節「ひとつのことを主に願い、それだけを求めよう。命のある限り、主の家に宿り、主を仰ぎ望んで喜びを得、その宮で朝を迎えることを。」に現されています。神殿に巡礼してそこで礼拝することを何よりの喜びと感じているのです。しかし、現実の状況は「さいなむ者が迫り、わたしの肉を食いつくそうと、戦いを挑んで来る」と。この辛く厳しい現実に体も心も打ちのめされ、神殿での礼拝に向かう気持ちさえ萎えてしまい、諦めてしまいそうになる自分を一方で感じているのでした。それ故に、そんなくじけそうになっている自分の気持ち＝自分の「心」に対して、自ら「心よ、主はお前に言われる。『わたしの顔を尋ね求めよ』と。」(8節) 叱咤激励しているのです。これは、まさになかなか自分でも自分の心＝気持ちがままならない、沸き立ってこない、自分でも自分が歯がゆく思っている状況をよーく認識しているからではないでしょうか。そうして、なんとかこの詩編の祈り人は「主よ、わたしは御顔を尋ね求めます」ともう一度、神様に希望を持って向き合うことが出来たのです！

そうして再び、神様への確信を表明して行きます。その中で特に有名な言葉は「父母はわたしを見捨てようとも、主は必ず、わたしを引き寄せてくださいます。」(10 節) です。この詩編の言葉は、昔から多くの信仰者、特に両親や家族に反対されながらも洗礼を受けていこうとしている人達や献身して神学校に行こうとしている人達を励まして来ました。このように申しています私もかつてそうでした。

13 節「わたしは信じます、命あるものの地で主の恵みを見ることを。」と祈られています。これはこの私たちが生きている地上で “主の恵み (＝神様が与えてくださる祝福)” を経験することが何より励ましになり、生きる力となるのではないでしょうか。苦しみや困難の中にあっても、この希望が支えになります。故に「主を待ち望め」(14 節) と！

最後に、実はキリスト者は代々、前述4節の「その宮で朝を迎えることを。」という “願い” を “天のみ国で” 朝を迎えることを待望する言葉として受け取ってきました。まさにこの地上での生涯を終えて、神様のみ元で “復活する (＝新しい命に目覚める) 朝” を迎えることは私たちの最終目標なのです。その望みを持ちながら、今この地上で与えてくださる「主の恵み」を感じながら生きて行きたい！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．11 月 9 日 (水) 20：00
Ⅱ．11 月 10 日 (木) 10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　壮年会を覚えて
担 当 者：　(水) 飯島　(木) 小林
祈りに覚える人：　相浦さん　青木さん

【教勢報告】

主日礼拝　男 20　女 58　計 78
祈祷会 Ⅰ．男6 女3 計9　Ⅱ．男2 女9 計11
日曜学校　幼稚科 3　小中科 11　計 14

【次週礼拝】　１１月　１３日（日）

聖　書：　民数記　１５：２７～３１
ヘブライ人への手紙　１０：２６～３９

説　教：「ヘブライ㉛ ― 故意に罪を犯し続けると」
武田 真治 牧師

讃美歌：　３５７(1)、３２(1)、１９６(1と2)、
４５２（3と4)、２７(1)

【次週当番表】

司式:坂田長老 奏楽:勝村 礼拝:齋藤長老
献金：松山　丸茂　受付：鈴木　橋本
会堂準備：飯島　岡本　金刺　中村
看板：岩佐　週報：金刺　お花：茨木

【次週集会予定】 礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・壮年会・婦人会・ダビデ会

６３－４５

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　１１月　６日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　　**武田　真治**

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/